

第3回石狩市総合計画策定審議会 議事録

【日 時】 令和8年6月22日（月）13：30～15：00

【場 所】 石狩市総合保健福祉センターりんくる 2階 交流活動室

【出席者】 19名（24名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	森 傑	○	委員	桑山 渉	○	委員	星野 ゆかり	○
副会長	酒井 妙美	×	委員	平野 花	○	委員	早川 久夫	×
委員	木村 邦博	○	委員	上田 均	○	委員	草野 竹史	○
委員	小笠原 英史	○	委員	清水 雅季	○	委員	佐藤 眞彰	○
委員	藤田 宏司	○	委員	菊地 功	○	委員	飯塚 諒	○
委員	村本 龍一	×	委員	東 幸子	○	委員	波多野 夢子	○
委員	小山 玲子	×	委員	渡邊 隆之	○	委員	八田 美夕	○
委員	野村 彩夏	○	委員	吉尾 健	×	委員	徳地 克実	○

【事務局】 企画政策部長 佐々木 大樹、企画課長 大川 実、企画課主査 市川 樹一郎
企画課主査 上原 範照、企画課主任 中村 洸太

【傍聴者】 0名

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第3回石狩市総合計画策定審議会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日は、次第、委員名簿兼出欠表、座席表、資料1「第6期石狩市総合計画の素案について」、資料2「戦略目標とねらいの整理表」、資料3「第2回審議会における意見の対応表」、資料4「13の分野別課題整理表」、資料5「第6期石狩市総合計画素案の概要」を用いて進行いたします。

また、本審議会は傍聴可能な公開形式であり、記録のため写真撮影等を行いますので、ご了承ください。

新年度となり、石狩市金融協会において役員改選に伴う委員の変更があり、石田琢磨委員に代わり、吉尾 健さまが新たに委員に就任されましたのでご報告いたします。

なお、本日は、酒井副会長、小山委員、村本委員、吉尾委員、早川委員がご都合により欠席です。

そして、事務局においても人事異動がありましたので、自己紹介いたします。

～事務局自己紹介～

本日の終了時刻は、15時を予定しております。それでは議事に入りたいと思います。森会長、よろしくお願いいたします。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

本日は、第 6 期総合計画の素案について、情報量が多いため、資料 1 の章ごとに区切って事務局から説明を受け、その都度、ご質問やご意見をいただきたいと思います。まずは第 1 章について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料 5「素案の概要」をご覧ください。資料 5 には各章・各節の記載内容、現在の進捗状況や審議会でご議論いただきたい事項を整理しています。また、資料 3 には第 2 回審議会委員の皆さまから頂いたご意見への対応状況を一覧にしています。そして、資料 4 は、各課ヒアリングや個別計画をもとに、市が抱える課題を基本施策の 13 分野に整理したものですので、適宜ご覧ください。

2 ページの目次をご覧ください。計画の構成について説明します。

第 1 章では、総合計画の役割や位置づけなど、総合計画自体の説明と石狩市の特色を記載します。この部分に関しては、骨子の段階とほぼ変更はありません。

第 2 章の基本構想は、骨子段階から「まちづくりのミッション」と「目指すまちの将来像」の順序を入れ替え、基本構想の達成に向けた基本計画や個別計画との関係性を示す節を追加しました。

第 3 章の基本計画では、骨子と同様に 6 つの戦略目標を掲げておりますが、その文言や内容を修正しています。また、保留としていた基本施策と各基本施策の方向性についても掲載することとしました。

その理由としては、石狩市自治基本条例第 16 条第 4 項において、「執行機関は総合計画との整合性を確保しながら施策を実施しなければならない」と規定されているため、6 つの戦略目標だけでは各分野の方向性を広く示すことが困難であることから、基本施策によって各分野の方向性を示すこととしました。

一方、6 つの戦略目標は、基本施策をもとにして、基本構想を達成するための計画期間内に重点的に取り組む重点施策という位置づけです。

3 ページをご覧ください。「第 6 期石狩市総合計画の策定にあたって」では、これからどのようなまちを目指し、どのようにまちづくりを進めるかという市民と行政の約束を示すものであることや、第 5 期で掲げたまちづくりのミッションや基本構想を継承しつつ、この 10 年間の社会情勢や地域課題の変化に対応した形で策定していることなど、策定の経緯等を記載しています。

4 ページでは、総合計画が市の最上位計画であること、基本構想と基本計画の二層構造であること、実行計画として石狩創生総合戦略を位置づけ、進捗を管理することで実効性を高めることを記載しています。

計画期間は令和 9 年度から令和 16 年度までの 8 年間とし、基本計画部分は 4 年間で半期として、必要に応じて適宜中間見直しを行います。

5 ページ以降の「石狩市について」では、エリアと地域特性に着目して市を紹介します。

5、6 ページのエリアの特色は、都市計画マスタープランなどと整合を図りながら記載することを予定しており、現在、関係課と調整中です。次回原案までに記載内容を検討します。

7、8 ページのまちの特色では、鮭のまちであること、石狩浜の海浜生態系、洋上風力や新港地域など、石狩市の特徴や優位性を紹介しています。

以上で第1章の説明を終わります。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

説明ありがとうございました。第1章について、ご確認やご質問がありましたらお願いします。

【徳地委員（浜益卒公募）】

8 ページの人口流入について、市全体として人口流入が続いているのは確かですが、エリアごとに見ると、人口流入が続いている地域と、浜益・厚田のように人口減少に立ち向かっている地域があります。その違いが分かる表現にさせていただけると良いと思います。

また、5、6 ページの5つのエリア紹介について、後に続く戦略目標のうち、どの地域でどれに力を入れるのかが分かるようにしていただきたいです。戦略目標は縦の軸として見えますが、エリアごとの横の軸が見えにくいと感じました。課題があるからこそ戦略目標につながる、説得力が増すので、そのような記載を検討してほしいです。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。人口に関する記載や、5、6 ページのエリア分けについては内部でも検討しています。単純に地名で分けるのが良いのか、導入的な整理にするのが良いのかを精査しているところです。地域ごとの課題がうまく記載できるよう、引き続き検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

今のご意見は大変重要だと思います。現時点では、素案の段階なので検討中だと思いますが、地域特性の記載内容はポジティブな内容が中心です。もちろんネガティブな面を強調する必要はありませんが、地域課題や社会情勢の変化を認識していることが伝わるよう、課題も一定程度記載した方が説得力があると思います。

【草野委員（NPO 法人 ezorock）】

特色の部分については、良いところだけでなく課題も記載した方が良いと思います。移住関係でも、良いところばかりを書いて、実際に住んでみたら思っていたのと違った、ということが起こっております。

例えば、まちの特色に豊かな食資源に関する記載がありますが、一方で気候変動などによ

る漁獲魚種の変化などが課題として考えられると思います。

また、自然環境の特色で石狩浜に関する記載がありますが、暑寒別国定公園もあり、この部分についても、どのようにこの環境を守り、活かしていくかということを記載する必要があると思います。

【事務局】

ご指摘のとおりだと思います。

5、6 ページは本日お示しできず申し訳ありませんが、例えば、厚田や浜益、石狩湾新港など、それぞれの地域の特性を整理しながら、ポジティブな部分だけでなく、後半につながる課題提起も含めてまとめていきたいと考えています。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

エリア分けについては、地図上で線を引くと、道路一本でどちらに属するのかという受け止めが生じることがあります。離れた場所でも課題や特徴が共通する場合がありますので、地図を背景にしつつ、エリアの特性を説明していく方法も一案です。ぜひ検討してください。

【桑山委員（石狩湾新港企業団地連絡協議会）】

年号の表記について、西暦と和暦が混在しているように見えます。私は西暦の方が分かりやすいですが、和暦の方が分かりやすい方もいます。表記を統一するか、併記するなど、読み手に分かりやすい表現を検討してほしいです。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

年号の表記については、統一した記載を検討いただきたいと思います。

一方で、近年は、国際的に自国の文化と言語を尊重する考え方があります。西暦の方が理解しやすいという意見がある一方、行政文書では和暦も広く用いられています。読み手にとって分かりやすく、文書全体として統一された表記となるよう、併記を含めてルールを整理してください。

それでは、第2章「基本構想」について説明をお願いします。

【事務局】

9 ページをご覧ください。第2章「基本構想」に入ります。

第2回審議会でもご説明したとおり、第5期から「まちづくりのミッション」と「目指す将来像」に変更はなく、第5期を基本的に継承しています。その上で、表現方法や説明内容を整理し、計画の目標から達成に向けた道筋を分かりやすくしたいと考えております。

まちづくりのミッションは、人口減少や超高齢社会が本格化する中で、人口流出を抑え、活気あるまちを維持するため、第5期と同様に、30年後のまちの持続を見据え、「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える「魅力あるまち」であり続ける」としています。

11 ページをご覧ください。目指すまちの将来像としては、都市としてありたい姿である

「都市像」と、そこに暮らす市民のありたい姿である「市民像」の2つを掲げています。

第5期策定時には、ワークショップ等を通じて多様な市民意見を拾い上げて、この将来像を設定しており、第6期策定にあたっては、地産地活博、はたちのつどい、石狩ミライゆる会議などで市民意見を拾い上げた結果、第5期と同様の方向性が確認できたため、第5期に設定した都市像と市民像を引き継ぐこととしました。

都市像につきましては、「創造」「絆」「環境」の3つを掲げ、「創造」では、歴史や文化が市民に受け継がれ、地域への愛着につながり、市民が新しい産業や魅力、価値を創造するまちを目指します。「絆」では、世代を超えて支え合い、安心して幸せに暮らせる「絆や人とのつながり」を育むしくみがあるまち。そして、「環境」では、優れた資源を活かし、暮らし、学び、産業、自然などに恵まれた豊かなライフスタイルや多様性を支えるまちを目指します。

市民像は、「石狩 PRIDE、いしかりへの愛着と誇り、そしてこの地での幸せな暮らし」を掲げています。

市民一人一人が躍動して暮らし、市民が主体となってまちづくりを進めることで、さらなる愛着や誇りが育まれることを目指します。

そして、「(3) 都市像と市民像の相互関係」では、都市像がもたらす安心して暮らせる生活の礎が、市民の主体的な暮らしを育み、市民がまちづくりを進めることで、さらなる市民のまちへの愛着や誇りが醸成され、市民像の実現につながるとともに、より良い暮らしの環境・都市が育まれるという相互関係を記載しています。

13、14 ページでは、基本構想と、それを達成するための6つの戦略目標や13の分野別基本施策、個別計画や事業との関係性を示しています。

鮭のまちとして、鮭の遡上をイメージした体系図とし、山頂にまちづくりのミッション、山並みに都市像と市民像、山から海へつながる川に6つの戦略目標、海に基本施策や個別計画・事業を位置づけています。

個別計画や事業は、総合計画を羅針盤として基本施策の方向に向かって進め、そのうち、重点的に進める戦略目標に対しては該当する川を上っていき、目指すまちの姿やまちづくりのミッションの達成につながっていくという体系を記しています。

デザインはラフ案であり、原案までに分かりやすく伝えられるように工夫します。

以上で第2章の説明を終わります。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

ありがとうございました。第2章について、ご確認やご質問がありましたらお願いします。

【八田委員（厚田梓公募）】

「30年後のまち」の時点について、前回の審議会の説明では、2015年に設定した時点で

の30年後、つまり2045年を想定していると認識していました。しかし、この表現だと2027年から30年後とも受け取れると思います。2015年から2045年を想定して考えた将来像を、現在の状況と照らしても大きなずれがないため継承する、ということに記載すると誤解が少なくなるのではないのでしょうか。

【事務局】

ご指摘ありがとうございます。30年後という考え方は、第5期計画策定時の考え方であり、当時は2045年を目安としていました。一方で、第6期では、将来に向けて、常におおむね30年先を見据えながらまちづくりを進めるという考え方もあります。

【八田委員（厚田梓公募）】

2045年なのか、今から30年後なのかで、市民から出てくる意見も変わってくるかもしれないと思います。

【事務局】

ご指摘のとおり、誤解がないよう、説明の仕方を整理して記載を検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

30年後という用語の使い方は、誤解が生じないよう明確にした方が良いでしょう。例えば、第5期では2045年を目安としていたが、第6期ではこれから先のおおむね30年を見据える考え方として置き直しているというように、改定の経緯を説明する方法もあります。重要なご指摘ですので、記載を工夫してください。

【徳地委員（浜益梓公募）】

都市像や市民像のところで、「市民がまちの主役」、「市民が主役としてまちづくりを進める」という表現があります。前回の審議会で、総合計画は行政向けか市民向けかという質問をした際、行政が作る計画であり市民に説明するものという説明がありました。その説明に対して、「市民が主役」という表現が、行政が市民に丸投げしているようにも受け取れるのではないかと感じました。

【事務局】

総合計画は、市民が主役となってまちづくりを進められるようにするための行政の計画であり、行政の総合計画をもとに個別計画や事業へつなげ、市民が主体となれる環境を整えるためのものと考えています。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

一般論の話となりますが、総合計画や個別計画は行政が策定し、その実現に責任を持つ計画です。一方で、行政の方針は、選挙で選ばれた市長や市議会を通じて市民の意思を踏まえながら形成されます。また、実際のまちづくりは行政だけで完結するものではなく、市民の

主体的な参加や、行政と市民との協働も重要です。

その意味では、総合計画は行政の計画でありながら、市民とともにまちづくりを進める方向性を示すものと整理できると思います。

今回のご指摘は、「市民が主役」という表現だけでは、行政が市民に責任を委ね、「自分たちのまちは自分たちだけで何とかしてください」と言っているように受け取られる可能性がある、ということだと思います。

そのような誤解を避けるためにも、行政が果たすべき責任を明確にした上で、「市民の主体的な参加」や「行政と市民との協働」といった表現を用い、双方の役割が伝わるよう工夫していただくとよいと思います。「主役」という言葉を残すのか、「主体性」や「協働」という言葉に置き換えるのかも含めて、検討してください。

13、14 ページのイラストについては、とても良いアイデアだと思います。山から川、海へとつながり、鮭が遡上するイメージによって計画の方向性を表現できれば、非常に良いメッセージになります。このコンセプトは大切にしていきたいと思います。

それでは、第3章に進みます。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

15 ページをご覧ください。ここから基本計画に入ります。

基本計画は、6つの戦略目標と、行政が担う13分野の基本施策で構成しています。戦略目標の詳細は資料2をご覧ください。

資料2では、左側に第2回審議会で提示した案、右側に素案検討段階で修正した新たな戦略目標とそのねらいを記載しています。

前は「基本的方向性」という言葉を用いていましたが、基本施策との使い分けのため、第5期を踏襲して「ねらい」という言葉に変更しています。

戦略目標は第5期の5つをベースとし、社会情勢や市民意見、庁内ワークショップの意見を基に1つ追加しました。さらに、市勢執行方針、庁内ヒアリング、審議会でのご意見、国や道の動きなどを踏まえて、それぞれの文言や内容を修正いたしました。

また、総合計画は行政の計画でありながら、市民と協働でまちづくりを進める方向性を示すものと考え、すべて「〇〇のまち」という表現に変更しております。

まず戦略目標1は「こどもが健やかに育つまち」です。現在、市の中心施策であるこどもまんなかまちづくりのもと、こどもに関する戦略目標を最初に位置づけました。

1-1では、こどもの権利の保護や活躍の場の創出、将来のまちづくりの担い手確保を含め、こども自身の活躍を目指します。

1-2では、子育て環境の整備、子育て支援、地域として子育てを見守る体制に焦点を当てます。

1-3では、こどもの成長と切り離せない分野として、教育環境、確かな学力の定着、こどもが自ら学び育つ環境に関して記載しています。

戦略目標2は「誰もが活躍するまち」です。第5期では高齢者にフォーカスしていました

が、超人口減少社会では高齢者に限らず、どの世代も活躍する必要があります。また、多文化共生や多様性の観点も含め、「誰もが」という表現にしました。

2-1 では、活動が縮小している町内会やこども会などの地域コミュニティ、時代に合った市民参加手続きの在り方、多世代の交流を基に、地域のつながりや賑わいを対象としたねらいとしています。

2-2 では、高齢者の生きがい、健康、医療、介護、就労など、高齢者が輝き続けるために必要な環境やしくみの整備を対象とします。

2-3 では、障がいのある方、外国人、ジェンダーなど多様な個性を認め合うことを対象としたねらいを定めています。

戦略目標 3 は「「地域資源」からモノやしごとをつくるまち」です。

豊かな農水産業や石狩湾新港地域、そして、各地域が固有で持つ「いしかりの資源や魅力」を活かした経済や産業、地域活性化に関する目標を掲げています。

3-1 では、石狩湾新港の優位性を活かした企業誘致や、近年進んでいる再生可能エネルギーやデータセンターに関する投資、洋上風力を活かした GX 産業を促進することを目指したねらいを設定します。

3-2 では、農林水産業や中小企業の支援、人手不足への対応、担い手や後継者の確保に関するねらいを記載します。

3-3 では、人口減少や高齢化が進む課題先進地において、地域資源や地域のつながり、関係人口を活かし、地域特性に応じた持続的な地域づくりを進めていくことをねらいとしています。

戦略目標 4 は「「いろんな顔」があるまち」です。市民目線の定住、外からの目線での移住や観光など、視点を変えてまちの魅力や地域の良さを見つけ、育てるという目標です。

4-1 では、住みよい環境が整い、安心して暮らし続けられるまちとして、公園、空き家、交通、ごみ、防犯、福祉、子育てなどの生活環境や都市機能に関すること。

4-2 では、外から見て住みたいと選ばれるまちとして、子育て環境、仕事、ブランド化、シティプロモーションに関すること。

4-3 では、観光資源や特産品の磨き上げ、食資源、ふるさと納税を通じた PR などに関することをねらいとしています。

戦略目標 5 は「誇りとなる「人や文化」が育つまち」です。生涯を通じて学び続ける環境を整え、文化、歴史、自然環境などのまちの魅力を発見し広げることで、いしかりへの誇りの醸成を目指します。

5-1 では、生涯学習や交流拠点、社会教育、文化、歴史、スポーツの磨き上げに関すること。

5-2 では、シビックプライドやこどものふるさと学習など、市民がいしかりのことを知り、いしかりに対する愛着を育む環境づくりに関すること。

5-3 では、自然環境や生物多様性の保全、脱炭素の推進に関する取組など、豊かな環境を

将来へ引き継ぐとともに、そこに対する市民の誇りの醸成に関するねらいを設定しております。

戦略目標 6 は「伝統と時の流れ」が織りなすまちです。不易流行の考えのもと、地域の変わらない魅力や価値を守りつつ、時代の変化に応じた新しい行政サービスや施策を取り入れることを目指します。

6-1 では、人口減少に伴う機能縮小、コンパクトなまちづくり、公共施設の統廃合、公共交通の維持など、将来を見据えた都市機能の形成をねらいとします。

6-2 では、防災・減災体制、老朽化したインフラの更新、耐震化、ヒグマなど獣害との共存に関すること。

6-3 では、人の温かみや地域のつながり、伝統や文化を大切にしつつ、新たな技術や仕組みを取り入れていくことをねらいとして設定しています。

なお、17 ページ以降は、行政が担う 13 分野の基本施策を記載しています。

市民意見、各課ヒアリング、個別計画、国や北海道の総合計画などを参考に施策内容を検討しました。第 5 期では 26 分野でしたが、記載量などを踏まえて分野の統廃合をし、第 6 期では 13 分野としています。基本施策では、各分野の大まかな方向性と、計画期間内に必要とされる主要な事業や施策を記載しています。

以上で第 3 章の説明を終わります。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

ありがとうございました。第 3 章について、資料 2 や 17 ページ以降も含め、ご意見があればお願いします。

【草野委員（NPO 法人 ezorock）】

資料 2 について、次の 30 年を考える上で入れておいた方が良いキーワードがあります。

1 つ目は、2-1 の地域コミュニティに関係する地域運営組織です。地域で自分たちの自治を進めていく動きが浜益で進んでおり、今後はほかの人口減少が進んだ地域でも広がっていくと思いますので、この地域運営組織という言葉を入れても良いのではないかと思います。

2 つ目は、3-3 の関係人口に関して、今後、ふるさと住民登録制度の動きが広まっていく可能性があります。そのため、これを関係人口を施策として位置づける表現があっても良いと思います。

3 つ目は、戦略目標やねらいを掛け合わせる視点です。例えば、こどもと自然体験を行うことで、デジタルデトックスや DX など、分野を横断的に組み合わせることで一層の価値創出ができると思います。そのため、第 3 章のどこかに、このような横断的な組み合わせを意識する記載があると良いと思います。

【事務局】

地域運営組織については、どのような表現で記載していくかも含め、引き続き検討します。

ふるさと住民登録制度についても、現在、国として動きが進んでいるところであり、関係人口の中を含めるのか、言葉として明記するのかを含めて検討します。掛け算の部分は、非常に幅広くなる可能性もありますので、頂いたイメージを踏まえながら表現方法を検討していきます。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

横断的な視点は重要です。基本施策は戦略目標と一対一で対応すると分かりやすい一方、施策によっては複数の戦略にまたがるものもあります。

例えば、昔はSDGsのマークのように、該当するマークを示す方法がありましたが、このような形も考えられます。参考として検討してください。

【菊地委員（石狩市連合町内会連絡協議会）】

地域コミュニティについて、若者をどう地域につなげるかという視点をもう少し入れていただけると良いと思います。新しい住宅地も増え、若者も入ってきていますので、町内会などへの関わりなど、若い人材を地域活動につなげることが課題であり、そういった記載を設けていただきたいと思います。

【事務局】

地域コミュニティや若い人材を地域環境につなげる視点は重要だと認識しています。記載の工夫を検討します。

【東委員（厚田地域協議会）】

戦略目標6-1に「コンパクトシティ」という言葉が出ています。厚田や浜益のような地域に住み、農地を離れられない職業にとっては、中心部に集めて住まわせるような印象を受け、気になりました。ここでは、どのような意味で使っているのか疑問に思いました。

【事務局】

コンパクトシティについては、物理的に集約して住んでいただくことを目指すものではないと考えています。例えば、仕組みや体制をよりスマートにするという意味も含めた考え方として整理したいと思います。誤解がないよう、表現を検討します。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

コンパクトシティという言葉は、受け取り方に注意が必要です。今回は関連キーワードとして出している段階だと思いますが、具体的な文言にする際には、誤解がないよう十分に精査してください。

【飯塚委員（公募）】

私は移住者で20代であり、子どもがいない立場です。この戦略目標を見たとき、子育て、

多世代、高齢者といった表現が中心で、20代や若者をターゲットとした記載が少ないように感じました。内容を読むと入っている部分もありますが、若者が関わることが見出しや文言として見えると、より自分ごととして見てもらえそうです。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

非常に重要なご指摘です。多様性の中にまとめられてしまうこともありますが、若者の存在がきちんと見えるようにすることは大切です。事務局の方で検討してください。

【佐藤委員（NPO 法人石狩国際交流協会）】

石狩湾新港地域について、市民の認知度が低いと思います。大企業や多様な働く場所があるにもかかわらず、市民が十分に知らないことは、定住や就職の面でももったいないです。総合計画の中でも新港地域の産業や働く場を市民に伝えることを考慮していただきたいです。

【事務局】

総合計画の中で広く市民に伝わるよう、石狩市の特性や特徴の記載を工夫していきたいと思っています。

【星野委員（子育て支援ワーカーズぽけっとママ）】

こども・子育ての部分について、未就学児への支援は記載されていますが、入学後の親御さんや日常を支える支援が少し薄いのではないかと思います。学校、放課後児童クラブ、塾というような受入施設だけでなく、日常的に家族で行ける場所や無料で過ごせる場所など、働いている保護者が多い中で、土日祝日や夕方の時間帯に使える場所が充実すると良いと思います。

【事務局】

学童期への支援は重要だと認識しています。戦略目標から分野別基本施策、さらにこどもビジョンなどの個別計画へとスムーズにつながるよう、また市民の皆さんに理解いただけるよう、記載を工夫していきます。

【森会長（北海道大学大学院工学研究院 教授）】

こどもに関連する施策については、どうしてもこどもを支える側、親側の視点が中心になりがちです。しかし本来は、こども自身がどう楽しく生きていくか、こども自身の生活の質をどう向上するかが重要です。そのため、こどものために何かをしてあげるという視点だけでなく、こども自身を直接の対象とした視点で施策を考えることを検討していただきたいです。

また、健康・医療・スポーツのところで、こころと身体を健康を挙げておりますが、近年はこどもや若者の心の不調は深刻になっていると感じています。こどもが心身ともに健やかな環境にいられるまちになっているかという視点は、こどもに関連する施策とも関係します。

そのため、施策同士の関連性が分かるような表現があると、理解しやすくなると思います。

同様に高齢者についても、支援する側の視点だけでなく、高齢者自身の楽しさや生活の質をどう高めるかという視点を意識して検討してください。

予定の時間となりました。全体を通して追加のご意見があれば、後日でも結構ですので、事務局へお伝えいただければと思います。それでは、事務局にお返しします。

【事務局】

重要なお意見をありがとうございました。次回の審議会は8月を予定していましたが、今回いただいた検討項目が多いため、9月頃の開催を予定いたします。日程が決まりましたら改めてお知らせします。

本日いただいたご意見を踏まえて素案を固め、次回の審議会では原案としてお示しできるよう進めてまいります。これをもちまして、第3回石狩市総合計画策定審議会を終了いたします。本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございました。

令和 8 年 6 月 25 日 議事録確定

石狩市総合計画策定審議会 会長 森 傑